

## 編 集 後 記

日本小児循環器学会の英文雑誌である *Journal of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery* は現在, PubMedへの収載とそれに引き続いての Impact Factor (IF) 取得を目指しており, 投稿規定, Journal の体裁, Editorial Board, 論文の質などを整える用意をしています。雑誌の IF 取得は, 雑誌と論文の価値, 読者数, 引用数を増加させて学術的価値を飛躍的に増幅させることでしょう。学会・学会雑誌が目指すべき一つの目標であり, 読者・投稿者・学会員にとっては有意義な方向性であると考えられます。一方, 和文誌の存在意義と目標は今後どこに見いだすことができるでしょうか。

症例報告, 総説, 教育講演の内容などが和文誌で論文化されており, これらは言うまでもなく有意義なコンテンツですが, これらも英文雑誌に含まれ, 世界に向けて発信していくても良い内容であります。つまり, 和文誌である意味はないかもしれません。和文誌である必要性から考えると, 社会へ語りかける・呼びかける内容を含む論文, 多領域専門職の方との共通の認識や学識を広げる総説, 学生や患者様との対話の場としての学会雑誌という意義が浮かんでくるかもしれません。現在はそのような内容は学会雑誌という年に数回刊行されるだけの遅いスピードの媒体ではなく, Web 上のコンテンツや多彩な SNS で語られているかもしれません。文字, 画像, 動画配信を用いて自分, 団体, 学会の意見をアピールすることが簡単に行われる現代で日本小児循環器学会の英文誌・和文誌が世界に向けて有意義な情報発信をすすめていくこと・発展していくことが, どのようななかたちができるのか今一度考えていく必要があります。

(早渕康信)